

Sji

人とクルマのいい関係をめざして

7

2005 JULY

編集室：〒351-0188 埼玉県和光市本町8-1
本田技研工業株式会社
安全運転普及本部内
電話 048(452)304編集人：河野光彦
年間購読料：1200円(定価1部100円・消費税込)
郵便振替 口座番号：00170-7-173273
加入者名：㈱アストクリエイティブ
安全運転普及本部係今月の
スポット卒業した子どもたちがや
がて親になり、その子ども
たちに伝えていくことで10
年、20年先の交通社会
を少しでも良くすることに
つながっていく。それが私
たち教師の役目だと思います。
(特集より)

CONTENTS

特集：シリーズ教育現場 / 第2回「高校の交通安全教育」..... ①

高校生参加体験型で進む
プレドライバー教育

TOPICS ④

第5回全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会 /
88校196名の教習指導員が自己を磨き、その運転技術を競う場
交通教育センターレインボー埼玉25周年記念式典 /
25年の節目を迎えた参加体験型の交通安全教育
活動短信 / 交通教育センター6月

OPINION ⑤

廣瀬敏也 / 個々の運転者の特性を反映した運転支援シ
ステム構築

HOW TO LEAD ⑤

山口大学 / 実験を通して理解する交通安全

DOCUMENT EYE 185 ⑥

高速道路で二人乗りをするパセンジャーの乗車姿勢と服装を
観察するシリーズ
教育現場
第2回「高校の交通
安全教育」

高校生参加体験型で進む プレドライバー教育

写真上 / クルマは急
に止まれないことを
体験する(更級農業
高校)
写真左 / シートベル
トをしないでクルマ
に乗るとどうなる
か、ロールプレイ
ングを行う(生光学
園高校)普通自動車免許を取得する前の高校生に行われるプレドライバー教育。より良き交通社会人の育成をめざすプレ
ドライバー教育から高校生は何を学ぶのか。当事者である高校生および、プレドライバー教育を受けてドライバーと
なった卒業生、教育に関わる教師への取材を通じ、そのあり方と教育効果を探る。

「ロールプレイングの発表の順番をまず、あ
みだで決めよう」。徳島市にある生光学園高校
の『安全学』の授業が始まる。6月16日、3年
生の5時限目の授業だ。テーマは「車に乗せて
もらうのは楽しい。でも危険もある」。友達や先
輩の運転するクルマに同乗する機会が増えてく
ると、無謀な運転で重大な事故に巻き込まれる
可能性も出てくる。授業は、安易に同乗するこ
との危険性を理解させ、安全運転のために、
同乗者の協力や責任ある態度が必要であることを
を、生徒自身で考え、気づかせることをめざし
ている。生徒たちは前回の授業の時に1クラス
を5、6人の3グループに分け、グループごと
にクルマに同乗するケースを与えられた。そし
て、それぞれ場面に合ったセリフを考え、ロー
ルプレイングを行う。教室の前方中央に段ボール
で作られたワゴン車がおかれる。

最初はケースA。「免許取り立ての先輩から
ドライブに行こうと誘われた。仲間同士でドラ
イブに出かけるのは初めて。みんな心が浮き立
っていました。そのうち1人が、もっとステ
ードを出そうぜ」と運転者に言い出すという設定
です」と同校・山本年副教諭が説明する。「わ
ー、海や」「やっぱ海はきれいですね先輩」と
Aグループの生徒の演技が始まった。「先輩、
黒いビニーのお姉さんがいる」「もっと近くで見
たいなあ。スピード出してください、先輩」「よ
っしゃ、もっとスピード出したる」。その時、
「事故になったら、どうするん」と女子。「つか
まったら、私たちの将来はどうなるの」「罰金み
んなで払えばええんや」。しばしの黙考。「私た
ちは払いませんよ、俺も払いません。先輩が
「よっしゃ、安全運転でいこか」拍手。

次はケースB。「友達の家に遊びに行き、遅
くなったので、友達のお兄さんからクルマで送
ってあげようといわれました。お兄さんは少し
お酒を飲んでいましたが、大丈夫と言いました。
そんなシチュエーションです。Bグループの演
技開始。「はい、みんな乗る乗る」と酔ってい
るお兄さんがクルマを発進させる。「酔っていま
せんか?」「大丈夫だって、事故に遭うことな
んで滅多にないし」と、お兄さんは気にしない。
「俺は運転歴8年、まだ、無事故だ」と自信あ
りげだ。「でも、運転者は責任を持った運転を
しないと」と女子。そこへ警察官。酒気帯び運
転で違反となる。「点数ひかれましたね」「罰金
ですね」「あ、いわんこっちゃない」「これから
お兄さんどうするんですか?」。お兄さん「これ

将来、親になり子どもに伝える命の大切さ



からは飲酒運転をしないようという拍手。

ケースC。「部活の練習中、先輩がふらりとクルマで遊びに来て、差し入れをしてくれると言います。そして、皆でクルマで買い物に行くことになりました。Cグループの生徒たちが、テニス部の演技を始める。「あ、先輩、外車や。先輩、おっつてくださーいよ。」6人で先輩の外車に乗り込む。「すぐそこだから、シートベルトせんでええよ」と先輩。「十、私はいつもしているからする。結局、運転席、助手席はシートベルト非着用、2列目の後部座席の二人はシートベルトを着用、3列目の二人はシートベルトを非着用で出発。「先輩、スピード出し過ぎ、あー子どもだー」。全員で「どーん」と叫ぶ。事故が起きた。男子がその結末を語る。「事故状況は6人乗りのクルマがあまり通行量の多くない道を80km/hで走行中、子どもが飛び出して起きました。急にブレーキをかけたことにより、左方向にクルマがすべり、電柱にぶつかつたのです。子どもはかすり傷でしたが、シートベルトをしていなかったことにより、運転席と助手席の二人はフロントガラスに頭をぶつけて重傷。また、シートベルトをしていなかった3列目の二人が前方の2列目の生徒にぶつかり、シートベルトをしていた一人も負傷。事故の事例として後部座席の者がシートベ



「Safety Action21」のワークシートの問題について生徒たちが議論している

ルトをしていなかったために投げ出され、前方座席でシートベルトをしていた者も重傷を負う場合があります。最後に全員で「シートベルトはちゃんとつけよう」といって大きな拍手。

君たちの年代で身につけたものは一生身につく

3つのグループの発表が終わった。山本教諭が問いかける。「シートベルトのケースは下調べもされていたし、どこに座っていてもシートベルトをつける大切さが伝わりました。さっきみたいに先輩にシートベルトをしないといわれたいらどうしますか? 年上の人にどういう理由をつけてシートベルトをつけてもらいますか?」。女子が、「私、シートベルトをいつもつけていないと気持ち悪いんです、と答えます」と発言。「他に?」「シートベルトしてないと運転手自身が困りますよ」「ゆれて酔うんです」と発言が続いた。

同じく授業を担当した三好敦樹教諭が質問する。「クルマはシートベルト、ではバイクでは何?」「ヘルメット」。先生は、大学時代に警察の人から学んだことがあります。その時、言われたのが、法律で決まっているからヘルメットをかぶるのではなく自分の命を守るためにヘルメットをかぶるのだと。法律は命を守れ、と伝えている。そのためにヘルメットをかぶれと教えられた。それからヘルメットだけでなく、クルマに乗る時まだ、シートベルトが義務化されてなかったけど、必ずシートベルトをするようになりました。このことはすごく印象に残っていて子どもが生まれて、まだ1歳の首がすわらない頃から、ベビシートをつけさせました。いま、君たちの年代で身につけたものは一生身につくのです。」

再び山本教諭「ケースBは何が問題かな?。男子、判断力。」そう、認知、判断はどこで行いますか?、「頭です」。「アルコールを飲んでいて、正しい判断ができると思う人?」。全員、手を挙げない。「ケースAでは、あおる人がいます。あおることごといついことになるか、考えられる同乗者になってください。今度は君たちがあおられる側になるかもしれません。ここで5時間目が終わった。

続いて6時間目も『安全学』の授業。テーマは『友達を車に乗せるといついかならば友達の命を預かるといついかならば』。高校3年生年代の交通事故の死者数でもっとも多いのが四輪乗車中。その半数は同乗中である。普通自動車免許を取得してまもない高校生が運転するクルマに人を同乗させる時は、同乗者の命に責任を負うという自覚を持てるようにすることが、授業のねらいだ。ワークシートのコピーが生徒に配られる。『2カ月前に普通自動車免許を取った高校3年生の男の子が、ガールフレンドを誘って、クルマで出かける』という設定。ショッピングセンターに寄り、映画を見ての帰りの運転中に脇見をしてしまい、ガードレールに衝突。気がついた時は病院だった。ガールフレンドも同じ病院に運ばれ、脊髄損傷で一生涯介護が必要な体になった。

「この結果、法的には? 経済的には? 精神面では?」の二人はうつなると思っていますか? 女の子はガールフレンドの気持ちになんのかと山本教諭「いや」と女子たち。「さあ、発表してもらおうよ。経済的には?」「クルマの修理代。ガールフレンドの入院費。家族への慰謝料。道路の破損費用。」「精神面では?」「ガールフレンドへの一生の罪悪感。」「法的には?」「刑事責任、民事責任」と生徒たち。「ここで三好教諭が新たにコピーを配りながら「刑事上、民事上とも一つ行政上の責任、1つの事故には3つの責任がかかってくる。刑事上の責任では罰金を払わなければならないが、罰金以上の刑だと自分の就きたい職業につけなくなることもある。医師、看護師、歯科衛生士、薬剤師、栄養士、調理師……」。君たちのなりた職業もあるだろう。」「あ

徳島・生光学園高等学校

18年間続く『安全学』の授業

生光学園高校の『安全学』は1987年4月に、二輪の実技講習を取り入れた3学年にわたる週1時間の正規の授業としてスタートした。日本では初めての試みとして注目された。セルフコントロールなど4つの教育理念を掲げ、二輪を教材として交通安全を通じた人間教育を行っていたが、昨年度の後半からは、高校教師用参考資料『Safety Action21 高校生の交通安全教育』(社)日本自動車工業会発行)を教材として二輪のみならず、四輪免許取得世代の高校生へのフレンドライバー教育に取り組んでいる。

山本教諭は『Safety Action21』について、「四輪を取り入れた教育をどうしようと考えていた時に、良い教材にめぐりあえたと感じた」という。もちろん「二輪教育からフレンドライバー教育にテーマが移り、教材は変わるが、生光学園が一貫して取り組んできた人間教育の本質は変わらない。」「他人をいたわり大切にすること、セルフコントロールを身につけること、自分も他人も含めた命を大切にすることを、生徒に伝えることが安全学の根本です。」



加害者になった場合の賠償や、責任について説明する山本教諭

こうした生光学園での教育が、生徒のなかにどのように育っているのだろうか。15年前、生光学園を卒業して、今は4歳の息子を持つ母親となった大桑加容子さんは、安全学の授業をよく覚えていた。

「人の命を助ける救急法があったり、鈴鹿サーキット交通安全教育センターへ行って実技を体験したり、事故を起こすとこんなささいなことでは命をなくしてしまつ、命を第一に考える勉強をさせてもらいました。自分の命も大切、他人の命も大切と誓つたことをよく思い出します。大学で四輪免許を取り、就職してしばらくはバイク通勤でしたが、『安全学』の授業体験のおかげで運転していても、2台、3台先をみる。他人の運転もすこく気になります。子どもは生まれて1歳ぐらい、首もすわらないうちから、ベビシートをつけてクルマに乗せています。子どもが嫌がっても必ずつけさせる習慣を小さい頃から教えたので、今では自分からつけるようになりました。」

いま、生光学園は新たな展開に取り組もうとしている。「2005年度からは個人が個人を守ることを目的に自分の命を守り、人の命を大切にするファーストエイドの充実、自然災害への対応、避難、火災での消化器の使い方、護身術としての少林寺拳法なども安全学に加えていきます」(山本教諭)。2年生と3年生は消防署などの救護員の講習会に参加し、資格をとることが安全学の単位認定になるといふ。

Safety Action21=1学年6~8時間の授業を想定し、3年間で21項目の学習ができるように構成された高校教師用の参考資料。次の4つの特徴がある。高校世代の交通事故の現実に向き合う。高校生が自分で考え、実行できるようにする。生徒が参加する授業。交通安全教育をすぐ始められる。

千葉・茂原農業高等学校

自転車は車両、を自覚させる

千葉県立茂原農業高校は、昨年12月、全校のクラスでロングホームルームの時間に『Safety Action21』の『自転車は歩行者?それとも車両?』を使った交通安全の授業を行った。同校では、1学期に一

シリーズ・教育現場 第2回 「高校の交通安全教育」

度は必ずロングホームルームで、交通安全の指導を行う。交通安全係の市東弘光教諭は『Safety Action21』を見て、自転車の通学者が非常に多い同校の状況に、「これは使えるな」と思い、採用したという。「自転車の乗り方、マナーはときどき地域から苦情を受けるように、一人乗りをしたり、横に広がったりで、あまり良くない。そのため、学校でも交通安全指導では自転車の乗り方指導を中心に行っています。自転車が身近すぎると、自分たちが横に広がって走って行けば、それがすごく危険なことであるとか、加害者にまわることもあり得るといことが分からないという感じですね。そこで、『自転車は歩行者?それとも車両?』を取り上げたわけです。」

が車両であると自覚する方法の一つだと考えている。「いつか3年生を担当したら、加害者になった時の賠償について教えたいですね。こういう事故を起す被害者の方に対していくらか払わないといけないとか、具体的に数字を挙げて自覚を持ってもらうことが必要だと思います。クルマの便利に伴って責任を教え、責任感がなければクルマに乗る資格がないことを知ってもらいたい。そのうえで、『Safety Action21』にある危険予測というよつなことを教えると、危険予測がいかに大事か分かると思います。そこで、クルマから見ると自転車がいかに危ないかを伝えたいですね。実際、教員同士で危険予測をやると、クルマを運転している人ばかりなので、これが危ない、あれが危ないと思えます。市東教諭は、生徒の半数以上が自転車を利用している現実を踏まえ、自転車が身近な車両であることから出発して、やがて普通免許を取得して乗るであろうクルマも便利で身近な乗り物だが、正しく利用しなければ自転車以上に危険なものであることを理解させたいと考えている。

写真右 / 携帯電話のメールを打ちながら自転車を運転すると、スムーズな走行ができないことを生徒自ら確かめる



写真下 / 約20km/hの速度で自転車とクルマが併走し、旗の合図とともにブレーキをかけ、その停止距離を比較



長野・更級農業高等学校 体験講習で楽しく学ぶ

5月30日午後1時、長野県更級農業高校が年に1回、全校で取り組む「交通安全教室」が始まる。1年生と2年生は、自転車と歩行者についての地域の教習所の講演を聞く。テーマは、1年生は事故の事例をもとに事故防止に必要なポイント、2年生は加害者になった場合の責任。3年生は近くにある教習所、ドリームモータースクールの市東教諭が語っていた事故防止。加害責任、体験型教育が3年間の学習として体系化されているといえよう。

もブレーキをかけて停止する距離を比較する。次に40km/hでクルマだけが走行し、ブレーキをかけて、速度が2倍になると停止距離は2倍ではなく、2倍以上になることを確認する。次に、担任の教師が後部座席に生徒3名

が同乗したクルマを40km/hで走行。途中の交差点から歩行者に見立てた人形がクルマの前に飛び出し、急ブレーキをかけるが間に合わず、人形は衝突しバラバラになってしまう。「何の予告もせず、いきなり歩行者が飛び出して来た状況なので、運転している先生はとても驚かれたと思います。運転者がフードライバーだったとしてもこの場合は対応できません。運転は認知、判断、操作の繰り返しです。飛び出してきた歩行者を認知して、『危ない』と判断してからブレーキをかけるという操作を行います。ですから、クルマは急には止まらないのです。」



自転車の乗り方の説明や目の不自由な方の歩行体験が行われた

「身体障害者の保護」は、目の不自由な方の立場に立った歩行体験を行う。『自転車の正しい乗り方』は、自転車乗車中に事故に遭う多くの要因となる前方不注意について、携帯電話のメールを打ちながら自転車に乗ると、運転にどのような影響を与え、体験させる。シートベルト・夜間特性体験はシートベルト着用機で7km/hの衝突でもシートベルトを着用していないと自分の身体を支えられないことを体験した。『夜間特性体験』では、暗順応(明るい場所から暗い場所へ入った時、最初は周囲が見えず、やがて馴れてくると見えてくる現象)や蒸発現象(対向している車両相互のライトに照らされて、間にいる人が見えにくくなる現象)を体験し、クルマのライトの照射範囲や夜間の色の見え方の違いを確認した。